

よつ葉だより

2024年
11月18日号
No.814

～地産地消～
いのちと健康暮らしを守る
よつ葉生活協同組合

有機米田んぼ 上三川の稲刈り体験 10月19日

秋に入り、稲穂が頭を垂れる民間稲作研究所(栃木県上三川町)の田んぼで、稲刈り収穫体験を行いました。天気は前日に雨が降り心配しましたが、曇り空でスタートしました。

まず始めに、研究所の川俣さんより、今日刈る稲の説明がありました。品種は「ハブタエモチ」、関西で作られている品種でおもちになるお米です。6月29日の農業体験の時にみんなが植えた苗が育ったものです(もちろん、有機栽培です)。

参加者は合わせて45名、経験者も初めての人もたくさん、ワクワクしながら田んぼに移動します。

稲刈りの前に、川俣さんより刈り方と刈った稲の束ね方のレクチャーがありました。稲わらで束ねて、束ねた稲をはざかけで干すのが今回の流れです。

さあ、いよいよ収穫、慣れた人はサクサクと、初めての人は恐る恐る…。子供達は初めての子もとても上手。一緒に来た保護者の方もびくびく、感心しながら我が子の稲刈りの様子を嬉しそうに見つめていました。雲の切れ間から日が差し、気温も上がって汗をかき、休憩しながら進めます。

稲刈りが進み、田んぼからアマガエルが飛び出して来ました。川俣さん、「今年はまだ暖かいから、いろんな生き物がいるよ。」

皆様のご参加、お待ちしております。

有機栽培の田んぼは、命の田んぼ。水の残った用水にはダレマガエルがいました。はざかけが満タンになったところで記念写真を撮りました。ちょうどよくお楽しみのおやつのお昼ご飯も出来上がりました。

今回のメニューは、お餅、豚汁、お漬物、デザートにみかん。お餅のトッピングは納豆大根にずんだあん。ずんだあんは、目の前の畑の「サウイラズ」の枝豆を川俣さんが手間ひまかけて作った美味しいあんです。食事を受け取る時も、「稲刈り楽しかった～。」と声が出て、おかわりに来た参加者からは、「ずんだあん、美味しい。」「豚汁、おかわりください。」の声。

最後に川俣さんから、「今みんなが頑張っていてはざかけしたお米は、一週間ほど乾燥させてから脱穀します。小さなお子さんも頑張ってくれましたね！」とお話がありました。

よつ葉生協では農業体験をすることで、生産者さんとの交流、有機農業の良さを知り、「食」を見直すきっかけの場を提供できればと思っています。(理事 小田切)



束ねた稲をはざかけて干します



上手に刈れました



がんばったよー！！！！



川俣さんからレクチャー

栃木県生協連くらし部会主催「地球を侵すプラスチック」9月30日

講師 共同通信社編集委員兼論説委員 井田徹治氏

国内に流れ着くプラスチックごみ

千葉市の海岸で市民団体が行った清掃活動で、大量のごみが集まりました。多くがプラスチックごみで、注射器などの危険なゴミも見つかりました。これはほんの一例です。

海外で放置されるプラスチックごみ

アフリカ西部 ギニアの海岸

首都コナクリの高級ホテルの前のプライベートビーチが売りものですが、数年前から大量の色とりどりのプラスチックゴミが海岸を埋め尽くし、異臭を放っています。



アフリカ南部 ザンビアのカヴウェ

プラごみを中心に有機物、コンクリート、金属などありとあらゆる種類のゴミが毎日、トラックによって頻繁に運び込まれ、自然発火で燃えています。異臭のなか、リサイクルできるプラスチックを拾って生活の足しにするためにいくつもの家族がやってきます。



モルディブ インド洋

美しいサンゴ礁で有名なインド洋に浮かぶリゾート島。島内には島民が出すごみを処理する施設が無く、観光客が持ち込む大量のプラごみが加わって一国の処理能力を超えています。モルディブ政府は首都近くのティラフシ島を「ごみの島」に指定、頻繁にゴミ運搬船が着岸しゴミを運び込んでいる。ゴミの量は人の背丈を大きく越えてふくれあがっています。

スカベンジャー 貧困が深刻な世界で

リサイクルできるプラスチックを拾い出して生活の足しとなる収入を得る人々を指す言葉で、乳飲み子を背負った母親や、拾ったペットボトルの中に残るジュースを当たり前のように口にする子もいます。モルディブのような観光立国も、島ごとの処理施設はつくりえない。ここで働くのはバングラデシュからの貧しい移民労働者。異臭のなか不十分な防護具、安い賃金で働き、健康不安やケガにつながる深刻な人権問題です。

プラスチックごみ問題は地球規模で解決しなければならない

年間3億トンのプラごみの多くは使い捨てプラスチック。レジ袋、ペットボトル、食品包装容器、ストロー、衣類、繊維類など。日本人の排出は一人当たり年間40kg、アメリカに次いで世界で2番目に多い量です。



「アホウドリの体内に
使い捨てライター」

2022年のOECD報告書によると、プラスチック廃棄物のリサイクル率はたった9%。全体の22%は

管理されず放置、河川や海洋などに大量に放出されています。2050年には海の魚の総重量より多くなるとの衝撃的な見込みも出されています。

大量生産が大量ゴミにつながっている

日本の使い捨ては、ペットボトル250億本、レジ袋500億枚、傘1億2000万本にもなります。ペットボトルは90%近く回収しても年間25億本は「未回収」。「リサイクルに出しているからいいのだ」は根本的な解決ではありません。日本ではリサイクルの考えが偏重され、リデュース（削減）、リユース（再利用）が遅れています。プラスチックを使う人、使った後の問題は個人任せ、自治体任せです。

石垣島



国内のプラごみリサイクル方法と割合

- ① サーマルリサイクル=プラごみを燃やして、熱を回収したり発電に使ったりする方法 **57% 534万トン**
- ② マテリアルリサイクル=同じ製品の原材料として再利用する方法 **22% 200万トン**
- ③ ケミカルリサイクル=化学的に分解して化学製品の原料として再利用する方法 **3% 30万トン**
- ④ 単純焼却=熱回収などをせず、単に燃やすだけ。 **10% 98万トン**

「リサイクルされている」と思われたプラごみの67%は、実際は燃やされています。マテリアルリサイクルは、もう一つ大きな問題は、200万トンのうち80%にあたる約160万トンが、海外に「輸出」されていること。日本国内できちんとリサイクルされているのはわずか40万トンほどしかありません。

回収・中間処理費用の負担は税金

1996年施行の「容器包装リサイクル法（容リ法）」は、家庭や事業系からのごみを減らすための法律だが対策が不十分。ごみ回収、中間処理の費用や手間は自治体、私たちの税金負担です。プラスチックの製造会社や商品として販売する企業へごみの責任（拡大生産者責任）を負わせず、自治体の負担が増えるだけです。製造・販売企業に「ゴミ」になる商品は作らない、売らないという動機づけができない仕組みが、ゴミが増え続ける背景にあります。

個人の行動と政策で変える

国連環境総会（UNEA）は、今年末までに新たな国際条約をつくり、法的拘束力で脱プラスチックを国際的に進める枠組みをめざしています。反対する産油国や日本のような対策後進国と足並みをそろえることが急務で、国内でも課金や課税、有料化も必要になります。今以上に踏み込んだ「使わない」「捨てない」選択をしましょう。京都府亀岡市のような先進地に学ぶことも多いです。

講演後に、参加者ひとりひとりが「行動計画」を作成しました。プラスチック問題は個人の行動の結果と国の政策が根源です。「今の行動をどう変えてごみを減らすか」を発表し合いました。

（理事 三輪）



参加してみませんか

<お問合せ よつ葉生協 組合員組織部 TEL 0120-07-1613>

栃木

話・輪・WA in 栃木 『親子でクッキング☆クリスマスお米パーティ』

未就学児無料

親子で楽しむお米料理、お米の食べ比べ、クリスマスライス、ピザ・パフェを作ります。親子で簡単に作れるレシピですので、一緒に参加ください。

日時：12月21日(土) 10:00~12:00 (受付9:45~)

会場：大平健康福祉センター「ゆうゆうプラザ」
(栃木県栃木市大平町西野田 666-1)

参加費：組合員 大人(中学生以上) 800円 小学生 400円
一般 大人(中学生以上) 1000円 小学生 500円

定員：8組

託児：なし

締切日：11月29日(金)

主催：よつ葉生協



2024.10.3(木) よつ葉の広場～話・輪・WA～in 筑西

よつ葉のお菓子と市販のお菓子を食べ比べてみました！

当日食べ比べたよつ葉の商品がこちら

今年度第1回目のよつ葉の広場～話・輪・WA～をグランテラス筑西にて開催しました。

今回は食育応援団の松下さんを講師に、普段食べているお菓子やジュースなど、子どもが食べる機会が多いものを中心に、よつ葉商品と市販品の食べ比べをしました。

《今回食べ比べをしたよつ葉の商品》

有機みかんサイダー、有機カテキン緑茶

さつまいものバスクチーズケーキ、黄金きなこ飴、久保田のバニラアイスクリーム

玄米スナック(のり・味噌)、純国産ポテトチップス(うすしお)、柿の種(梅味)



この中でも特に反応が大きかったのが、柿の種(梅味)でした。市販品に比べて「これが梅味なの？」と思うくらいに味の違いがありました。塩分量はさほど変わらないのに、よつ葉の商品の方が塩味が強く感じられるのです。松下さんの解説では、市販品には味覚を誤魔化すアミノ酸(グルタミン酸ナトリウム)が入っていて、塩味を抑えて旨みに変えているということでした。小さいうちからこのアミノ酸に慣れてしまうと味覚がおかしくなってしまうそうです。

また、「化学調味料」は「うまみ調味料」と言い換え、イメージの悪いものは使えないようになってきているそうです。イメージに囚われない賢い消費者になりたいですね。

参加された方からは「知るということがとても大切だと改めて感じました」「食べ比べ、とても良かったです。単体で食べると気づかない味の違いがよくわかりました」「あらためて食の大切さを考えることができました」「松下さんのお話がいつも面白くてためになります」とたくさんの感想をいただき、和やかで楽しく勉強できる会となりました。

今後もよつ葉の広場～話・輪・WA～を開催予定です。皆さんにお会いできることを楽しみにしております！

参加者のみなさんに印象に残った内容を聞きました。

○松下さんのお話から、自分への思いやり、身体への感謝の大切さ+食の大切さ、他社との味の比較ができて良かったです。

○食べ物は教育！腸と脳は一緒！ミネラル・ビタミンの大切さ！とかすべての言葉が勉強になりました。

○体は半分が食べ物、半分は体のメンテナンスが大事。炭水化物、砂糖(自分で砂糖の量を認識する) だまされたい。自分の目を確かな物に向ける。一物全体。腸と脳は一緒。ミネラルとビタミンが大切。

○何度か松下さんのお話は聞いているのですが、夫婦二人の生活になって食生活もゆるくなってきたところでした。食べ比べとても良かったです。(中略)そして生産者さんのこだわりも伝わりました。買い支えしていきたいと思いました。

(理事 篠原)

よつ葉の広場～話・輪・WA～は、よつ葉生協や商品をもっと知ってもらい、交流できる場として開催しています。今後も各地域で開きます。組合員でない方もご参加できます！

【今後の予定】

in 栃木 12月21日(土)

親子クッキング☆クリスマスお米パーティ

(P3上「参加してみませんか」をご覧ください)

in 宇都宮 2025年3月1日(土)午後

七合診療所 本間真二郎医師講演会

※宇都宮市内で開催予定。近くなりましたら「よつ葉だより」でご案内します。



文化イベント情報

■各イベントのお問い合わせは、直接主催者または連絡先をお願いいたします。

2024年度市民講座「アグロエコロジー 農業の本来の機能を取り戻す」 日程変更のお知らせ

よつ葉だより No807 (9月30日号) 3ページ【文化イベント情報】でお知らせした2024年度市民講座「アグロエコロジー 農業の本来の機能を取り戻す」の日程は下記となりました。

第3回 12月16日(月) 持続可能な農生態系とは? 持続可能性の指標

第4回 1月20日(月) 持続可能な農生態系から持続可能なフードシステムへ

お申込み NPO 法人民間稲作研究所事務局 0285-53-1133

または有機農業技術支援センター 0285-37-7366

足利

CHRISTMAS CONCERT & MARCHE

平和の祈り 聖なる賛美

●日時 12月14日(土) 15:00開演(13:00開場)

●会場 足利商工会議所友愛会館 友愛ホール(足利市通3丁目2757)

●入場料 全席自由 1000円(当日券1400円) ※小学生以下無料

- 内容 第1部 アルファリリー ハンドベルの聖夜
 - ・Come, Thou Fount of Ev'ry Blessing・きよしこの夜
 - ・いつも何度でも(「千と千尋の神隠し」より)・おめでとうクリスマス
 - ・赤鼻のトナカイ・Realms of Glory
- 第2部 ダニエラ・プスタマンテ ソプラノコンサート
 - ・What child is this? ~御使いうたいて~ (イギリス民謡)・楽しもうささやかなクリスマス
 - ・Santa la noche・主の祈り ほか

●主催 第44回市民クリスマス実行委員会 ●後援 わたらせテレビ(株)・よつ葉生協
<チケット> 足利商工会議所友愛会館 TEL0284-21-1354・足利東教会 TEL 0284-41-7865(問合せ)

冬季はノロウイルスの危険性が高まります。食品の取り扱いには十分注意しましょう。

ノロウイルスによる食中毒を予防するポイントは4つまる

ウイルスを調理場内に「①持ち込まない」ために、手を石けんでよく洗うまる

食べ物や調理器具にウイルスを「②ひろげない」、「③つけない」が重要まる

付着してしまったウイルスを加熱して「④やっつける」まる

栃木県保健福祉部医薬・生活衛生課 ☎028-623-3109

「よつ葉生協は、栃木県生協連と栃木県との包括連携協定に基づき、県の広報に協力しています」

〇チケットプレゼント よつ葉生協の組合員の方、10名様を「CHRISTMAS CONCERT & MARCHE 平和の祈り 聖なる賛美」へご招待いたします。チケット申込QRコードからお申込みください。当選者のみご連絡いたします。



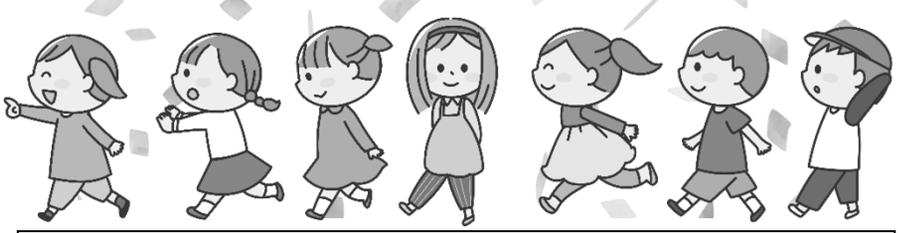
第33回よつ葉ふれあいまつり
くじ引きのお知らせ

11月23日(土) 10:00~14:00
小山総合公園第3駐車場
(県南体育館となり)

当日、会場でリストバンドをお配りします。
会場から出るときは、リストバンドと引き換えに「くじ引き」ができます!

当りは300本!!
くらら商品が当たるよ!

場所 会場奥側入り口の受付
くじ引き時間 11:00~14:00 終了まで



ご意見・ご感想をお寄せください。お名前と組合員番号をご記入の上、共同購入注文書またはお手紙でお願いします。掲載の方には粗品をプレゼントいたします。※掲載するにあたって事前ご連絡をすることはありませんので、ご了承ください。

東日本大震災・東電原発事故での支援金 募金報告(11月1週分) ご協力ありがとうございます。組合員さんの温かいお気持ちが今週も寄せられています(単位:円)

放射能から子どもを守る募金 (900番)	5,200
震災孤児を支援する募金 (910番)	17,100
「有機農業と国産種子」募金 (920番)	7,000
合計	29,300

共同購入注文書裏の「10品以上の記入欄」に該当番号と数量をご記入ください。WEB注文の場合は、左側「企画商品・募金」内の「募金関連」をクリック。一口100円の募金になります。

●編集・発行よつ葉生活協同組合 小山市栗宮1223
☎0120-07-1613 TEL 0285-45-9100 FAX 0285-45-9101
HP <https://yotsubacoop.jp/>
よつ葉だよりメールアドレス yotsubadayori@yotsuba-coop.jp

QRコード: ホームページ, Facebook, Instagram